

第5回肝属川水防災意識社会再構築協議会を開催しました！

令和元年6月18日
大隅河川国道事務所

1.概要

- 肝属川において、水防災意識社会の再構築を図るため、国・県・沿川1市2町（鹿屋市、肝付町、東串良町）からなる「第5回肝属川水防災意識社会再構築協議会」を令和元年6月18日に開催しました。（第5回協議会）
- 各機関の「肝属川の減災に係る取組方針」の実施状況や個別施策等の実施状況について共有するとともに、「緊急行動計画の改定」の概要、平成30年度の出水の状況等について説明、意見交換を行い、今後の進め方について議論しました。

2.日時／実施状況

日時：令和元年6月18日（火）
場所：大隅河川国道事務所 3階大会議室
出席者：鹿屋市（副市長）、肝付町（町長）、東串良町（町長）、
鹿児島地方気象台（台長）、鹿児島県（河川課、危機管理課）
大隅河川国道事務所（所長）
（オブザーバー） 笠野原土地改良区 **関係機関 約16名が参加**

3.議事内容

- ・「肝属川の減災に係る取組方針」の実施状況や取組項目毎の進捗状況について、事務局、各機関から説明し、情報共有がなされた。
- ・「緊急行動計画の改定」の概要、平成30年度の出水の状況について、事務局から説明し、意見交換が行われた。
- ・個別施策として、危機管理型水位計の設置、水防災教育の実施、地区別タイムラインの概要、浸水情報提供ツールの作成状況等について、事務局から説明し、意見交換が行われた。

4.主な意見・コメント等

- ・取組項目が多く、総花的であるため、目標を明確にした方がよい。
- ・地区別タイムラインは、地区に特化した避難基準（基準水位）を設定でき、避難に有効であると思われる。
- ・雨の降り方が局地化していることに加え、台風のように風が強いときは雨量計で雨を捉えきれない場合もある。気象台ではレーダーの面的な観測も利用して雨量計のない地域に対しても危険度を算出しているのをご利用いただきたい。
- ・可視化技術（VR：Virtual Reality）を利用した浸水情報提供ツールは、避難訓練等の前に参加者に見せることで有効なツールになると思われる。



会場全景（大隅河川国道事務所）



肝付町長



東串良町長